

# 日医ニュース

2022. 8. 20 No. 1462

**日本医師会**  
Japan Medical Association

〒113-8621 東京都文京区本駒込2-28-16  
電話 03-3946-2121(代)  
FAX 03-3946-6295  
E-mail www.info@po.med.or.jp  
https://www.med.or.jp/

毎月2回 5日・20日発行 定価 2,400円/年(郵税共)



**トピックス**

- 役員紹介(副会長) ..... 2面
- 知って欲しい! 松本会長② ..... 3面
- 全国知事会と日本医師会との意見交換会 ..... 4面

## 松本会長

# 新型コロナの感染急拡大を受けて オールジャパンでの対応の必要性を強調

### 状況改善への方策

- **地域にトリアージ機能をもつ仕組みを構築**  
地域の行政と連携して、電話相談センターの機能を拡充し、まず①電話がつながるように、次に②相談者のうち受診がぜひ必要な対象者をトリアージし、確実に医療(最寄りの診療・検査医療機関など)につなげるとともに、③自宅で様子を見る選択をした場合の留意点の周知や、不安解消に役割を担う仕組みを構築する
- **地域外来・検査センターへの出務**  
自診療所で新型コロナ検査対応が困難でも、同センターへの出務を通じて地域の検査数拡大に貢献
- **自宅療養者のフォローアップ**  
診療所も病院も医療現場は極めて逼迫しており、ほとんど余力がない場合が多いが、可能な限り自宅療養者から求められる対応に応じるよう努める
- **高齢者施設等と協力医療機関との連携**  
新規感染者の増加に伴い、高齢者施設等での感染者増加が予想される。大規模クラスターの発生につなげないためには、初期対応が重要であり、行政による医師・看護師などの緊急支援チーム派遣体制整備とともに、協力医療機関には事前の施設との連携・情報交換が求められる

松本会長は医療現場の状況について、「行政の搬送受入調整本部、保健所も含め、現場は懸命に努力をしているが、今回の新規感染者数の増加はあまりにも急激で、非常に困難な状況に置かれて

いる」と指摘。政府及び都道府県等の行政に対しては、各医療現場で検査試薬や検体採取材料、検査キット等の不足が起ることがないような施策の強化とともに、マンパワーに限られる診療所な

どの医療機関では特に負担が大きいため、HER-SYSの入力の一層の簡素化を求めた。

また、感染者数が増加すれば、相対的に入院が可能な人も増え、新型コロナ以外の患者も含む救



松本吉郎会長は7月27日、記者会見を行い、新型コロナウイルス感染症の感染が急拡大する中で、全国の都道府県・郡市区医師会、そして医師会員の先生方のこれまでの尽力に感謝の意を示すと同時に、検査試薬等の不足を防ぐ施策の強化などを要請。一方、釜淵敏常任理事は「状況改善への方策」(別掲)を示し、その実現に向けた協力を求めた。

大には、オールジャパンで対応しなければならぬと強調。その観点から、7月27日付で都道府県・郡市区医師会宛てに文書を発出し、構造上等の理由や、がんや人工透析等の重症化リスクを抱える患者を感染から守るため、診療・検査医療機関の指定を受けられない医師会員には、例えば地域医師会等による地域外来・検査センターや拠点的な発熱

急医療に大きな支障が出ることを、総務省消防庁による「各消防本部からの救急搬送困難事案に係る状況調査」の結果を基に説明。屋内等で人と話す際にはマスクを着けるなど、基本的な感染防止対策が重要になるとした。

現在のオミクロン株への対応については、「発熱外来診療体制の更なる強化が不可欠であるが、各地域医師会のリーダーシップと現場の努力により、発熱外来診療体制は既に、診療・検査医療機関が約3・9万施設、また、地域医師会等の運営による地域外来・検査センターは457施設に達している」として、全国の医師会と医師会員に対して現在までの尽力に心からの感謝の意を示す一方で、過去にない感染拡大

外来に交代制で出務してもらうとともに、かかりつけ患者のみを対象としている診療・検査医療機関には、広く地域の発熱患者を診てもらうことを求めたことを明らかにし、「日本医師会は、今後も政府に対してさまざまな支援措置を要望し、現場を支えて参りますので、医療現場の皆さんには感染が峠を越えるまでもう一息頑張ってください」と述べ、引き続きの協力を求めた。

その他、松本会長は、7月22日、岸田文雄内閣総理大臣との会談で協力

## 松本会長

### 岸田総理と会談 抗原定性検査キットの配布に 協力する意向を伝える



松本吉郎会長は7月22日、岸田文雄内閣総理大臣の要請に応じて、総理

がある人に発熱外来での受診に代えて抗原定性検査キットによる自主検査

を求められた診療・検査医療機関で抗原定性検査キットを有症状者に配布することについて、「現場に混乱を生じさせず、

「状況改善への方策」を提示 - 釜淵常任理事

会見に同席した釜淵常任理事は、新型コロナウイルス感染症への対応に

「状況改善への方策」を提示。その上で、喫緊の課題は外来で受診を希望する人達への対応であるとして、4点からなる「状況改善への方策」を提示。会員の理解と協力の下に地域の医師会が主体的な役割を果たし、その方策を実現することに期待感を示した。

その上で、喫緊の課題は外来で受診を希望する人達への対応であるとして、4点からなる「状況改善への方策」を提示。会員の理解と協力の下に地域の医師会が主体的な役割を果たし、その方策を実現することに期待感を示した。

官邸を急ぎよ訪問し、会談を行った。会談の中で、岸田総理は発熱外来で起きている混乱を回避しつつ、必要な健康観察等を受けられるよう、発熱等の症状を訴える人に発熱外来での受診に代えて抗原定性検査キットによる自主検査

を受けられる態勢を構築する意向を説明し、協力を要請。松本会長は「最大限協力する」との意向を伝えた。

また、岸田総理から発熱外来を受診しづらくなっているとして、その状況の改善を求められたことに対して、松本会長は「協力を考えを伝える一方で、医療提供体制が逼迫している地域もあること」に理解を求めた。

その他、当日の会談で岸田総理は日本医師会からの要望を踏まえ、7月末までの期限とされたい

た時間外・休日のワクチン接種会場への医療従事者の派遣や、個別接種への支援を9月末まで延長する旨を説明。松本会長は改めて感謝の意を伝えた。

なお、今回の岸田総理からの要請を受けて、日本医師会では同日に都道府県医師会長並びに郡市区医師会長宛てに「新型コロナウイルス感染症急拡大に対するさらなる協力について」と題する文書

感染拡大を起こさないよう、効率よく行う必要がある。各都道府県医師会と都道府県行政は協議の上で、各地域の実情に合った取り組みを早急に築かなければならない」と強調。日本医師会としても、全国知事会に対して協力を求める考えを示した。

「状況改善への方策」を提示 - 釜淵常任理事

会見に同席した釜淵常任理事は、新型コロナウイルス感染症への対応に

「状況改善への方策」を提示。その上で、喫緊の課題は外来で受診を希望する人達への対応であるとして、4点からなる「状況改善への方策」を提示。会員の理解と協力の下に地域の医師会が主体的な役割を果たし、その方策を実現することに期待感を示した。

# 役員紹介へ副会長

## 茂松 茂人 副会長



6月の日本医師会定例代議員会において、副会長に選任・選定頂き、深く感謝申し上げます。新任の役員として、私に与えられた職務は主に「医療政策、医療保険、

介護保険・福祉、救急災害医療、感染症危機管理対策」の他、日本医師連盟等と多岐にわたり、その職責の重さに身の引き締まる思いです。コロナ禍で明らかになった日本の社会保障の脆弱さは、これまで推し進められてきた病床数の削減を中心とする新自由主義的な社会保障改革に起因することは明らかです。更に、高齢者人口がピークを迎える2040年代を見据えると、医療提供体制や給付と負担のあり方をめぐる攻防が一層激しくなることが予想されます。こうした状況を受けて我々が目指す医療政策を

実現するためには、日本医師会が強いリーダーシップをもって積極的に提言し、政府与党に耳を傾けてもらえるよう普段から話し合える関係を築かなければなりません。松本新会長の下、新執行部が一丸となって国民の命と健康を守るとともに、国民や会員からの信頼を取り戻し、役職員の風通しを良くしながら開かれた日本医師会を目指して全力で取り組んで参りますので、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

## 角田 徹 副会長



6月25日の定例代議員会において、今回初めて副会長に選任・選定頂き

ました。心より御礼申し上げますとともに、その職責の重さを痛感しております。総務、財務、広報、情報、学術・生涯教育、地域医療、国際等を担当いたしますので、どうぞよろしくお願いたします。

また、コロナ禍によって前倒しのように将来の多くの課題がすぐ目の前に迫っています。大きな転換期への移行が早まり、そしてより短期間に対処せざるを得なくなっています。この2年間は、本当に大変な時期と認識している

ます。将来の日本の医療提供体制、介護・福祉を含めた社会保障のあり方、ひいては国としての公衆衛生の考え方や、早急に議論を進め、国民同意を得て邁進しなければならぬ状況と想っています。そのためにも、日本医師会は強固な組織であり、全国の現場からのご意見を頂き、国との協調によって施策を実現できる集合体でなければならないと

## 猪口 雄二 副会長



2022年6月25日定例代議員会において、二

期目の副会長に選任・選定頂きました猪口雄二です。代議員の皆様には、心より御礼申し上げます。また、副会長の継続となり、その職責の重さに身の引き締まる思いです。

私は東京都江東区で父の跡を継ぎ、32歳から小規模の病院を運営しており、地区医師会では20年間理事を務めて参りました。また、平成29年より(公社)全日本病院協会長を兼務しております。これまで、中央社会保険医療協議会(中医協)委員、社会保障審議会医療部会委員なども拝命させて頂きました。

今回の新体制においては、更に長期化するコロナ禍の中で、更なる地域医療の充実のために

は、第8次医療計画等に関する検討会、地域医療構想及び医師確保計画に関するワーキンググループ、医師の働き方改革の推進に関する検討会など、厚生労働省の重要な検討会などに参加させて頂きます。超高齢化少子社会において、更に長期化するコロナ禍の中で、更なる地域医療の充実のために

は、全ての医療機関や関係職種が一丸となって将来の医療を考え、構築していく必要があります。今後ともご指導の程に、日本医師会執行部の皆様と共に松本会長をお支

えし、日本の医療、医療界のため誠心誠意努力する所存です。今後はともご指導の程に、日本医師会執行部の皆様と共に松本会長をお支

### 会費減免期間の延長を決定

#### 卒後5年目までが対象に

日本医師会は7月26日に開催した令和4年度第5回理事会で、令和5年度より、現在臨床研修医に適用している会費減免の期間を卒後5年目まで延長することを決定した。医師会の組織力強化は、喫緊の課題として取り組むべき最重要事項の一つとなっている。とりわけ、会員数の確保は、より多くの先生方の声を踏まえた会務運営に資するとともに、対外的な医師会への評価という側面からも早急な対応が必要となっており、松本吉郎会長も6月26日に開催された第152回日本医師会臨時代議員会の所信表明の中で、会費減免期間を延長する意向を示していた。

今回決定した延長期間は卒後5年目まで、卒業年度は大学医学部の卒業年度とし、3月の卒業者は、翌年度から5年度分を、4月から翌年2月までの卒業者は、当該年度より5年度分をそれぞれ会費減免の対象期間とする。対象となる会員区分は全ての会員区分とし、『日医ニュース』『日医雑誌』に関しては、送付に代えて『日医ホームページ』『日医Lib』で対応することになる。

7月27日の定例記者会見で今回の措置の内容を説明した釜淵敏常任理事は、この取り組みが若手医師の入会への動機付けの一つとなり、より多くの先生方が入会することに期待感を示すとともに、「入会された先生方には、医師会活動への理解や関心を一層深めてもらうことで、会費減免期間終了後にも、医師会員として定着してもらい、わが国の医療を支える担い手として、共に歩を進めてもらいたい」と述べた。

税金、医療機関経営、医療政策、医療保険、勤務医、病院、有床診療所、医療廃棄物、環境保健、医師の働き方、精神保健(障害を含む)、周産期・乳幼児保健、小児在宅ケア、医事法制、検案、医賄責



# 新型コロナウイルス感染症に関する 全国知事会と日本医師会との意見交換会

## 新型コロナへの対応に両団体が 引き続き協力していくことを確認



会との更なる連携強化をお願いしたい」と述べると、配布が適切かつ迅速に行われるよう、各地域の実情に応じた仕組みをつくることも併せて要請した。

更に、新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金について、現在、政府・与党に対し、臨時交付金を積み増しして、医療機関や介護事業所等への支援に係る財源を確保することを要望していることと触れ、「今般の光熱費、食材費を始めとする物価高騰は、公定価格で経営する医療機関等に大きな影響を及ぼしている。各都道府県においては、この臨時交付金を用いてぜひ、医療機関・介護事業所等に対する支援をお願いしたい」と述べた。

濱田省司高知県知事(同ワクチンチームリーダー)は、新型コロナウイルスの検査希望者が急増する中、医療機関の負担を軽減するよう形で、検査キットの配布方法を検討しているとした他、ワクチンの4回目接種等への協力を要望した。

黒岩祐治神奈川県知事(同副本部長)は、神奈川県独自の自主療養制度で、配布される検査キットの活用を検討していることや、新型コロナウイルスの感染症法上の取り扱いを見直すべきとの意見が多く、知事から出されていることを説明。「新型コロナウイルスを全医療体制で診ていくことを日本医師会から全国の医師会に向けて発信し、欲しい」と要望した。

西脇隆俊京都府知事(同副本部長)は、保育園や学校等の休校等の影響で、子どもの世話のために休まざるを得ない医療従事者が増えていることから、府として業務継続のための支援をしていることを紹介し、国による支援も必要との認識を示した。

杉本達治福岡県知事(同幹事長)は、新型コロナウイルスの感染症法上の取り扱いについて、制度を実態に合わせていく時期に

来ているとする一方で、薬やワクチン代は国の負担のままにすることなどを要望した。

続いて、日本医師会の発言に移り、茂松茂人副会長が、「小さな診療所でも高齢者等の感染対策のため、時間的・空間的に分けて対応しているところもあるが、それができない場合には自治体等で発熱外来をつくり、交代制で医師が入る形も考えられる」とし、「各医師会と自治体が協力し合い、患者さんが困らないような対応を考えていく

### 日本医師会

## 全国知事会と共に 感染者の全数把握に代わる 事務負担の少ない仕組みへの 変更を申し入れ



で取りまとめられた新型コロナウイルス感染者の全数把握に代わる事務負担の少ない仕組みへの変更を求め、後藤茂之厚労大臣に手交した。

要望書の中では、「PCRによる新規感染者数の爆発的な増加により、現在の医療・保健現場は、感染症発生届の作成・入力や提出等の事務処理、入院勧告に係る全案件を協議会に諮る手続き等に膨大な人的リソースとエネルギーを割かれ、本来実施すべき感染者に対する医療・保健サービスの提供や積極的疫学調査等が展開できていないと指摘。政府に対しては、こうした実情に沿って、現在感染症法上現場に強制されている感染者の全数把握に代わる事務負担の少ない仕組みへ変更するよう、即刻の英断を求めている。

当日は、平井全国知事会長が要望書の内容を概説。松本会長は現場の負

にトリアージ機能をもつ仕組みを構築する必要性を指摘するとともに、各都道府県のコールセンター等の拡充を要望した。

最後に、松本会長は、「各知事から重要な提言を頂いた」として感謝の意を示すとともに、感染症法上の取り扱いについては、国の検討会等できつかりと発言していくとした。

また、検査キットの配布については、「現場に混乱を来さない形ですっかりと運用していきたい」と述べた。

平井全国知事会長は、検査キットの配布や陽性者の動線の問題について、地域の特性に合わせて対策をとっていくことが重要とした他、地方創生臨時交付金による今般の光熱費、食材費を始めとする物価高騰への対応については、知事会でも議論していく意向であることを紹介。同交付金に限らず、他の交付金や仕組みも考えられるとの見方を示し、「力を合わせ、今後も持続可能な医療経営ができるようにしていきたい」とした。

松本執行部発足後初となる「新型コロナウイルス感染症に関する全国知事会と日本医師会との意見交換会」が7月28日、WEB会議により開催された。

冒頭のあいさつで平井伸治全国知事会長(鳥取県知事/新型コロナウイルス緊急対策本部長)は、松本吉郎会長の当選に祝意を伝えた上で、オミクロン株の亜種「BA.5」の感染力の強さを踏まえた対策の必要性を知事会と

松本会長は、全国知事会と基本的に同じ方向を向いているとして、考え方を共有しながら連携していく姿勢を示した上で、7月22日に岸田文雄内閣総理大臣から、有症状者の希望者に、診療検査医療機関にて検査キットを配布することへの協力要請があったこと及び、要請を受けた対応等について説明。「必要な方に検査キットを配るため、各都道府県知事の皆様には都道府県医師

多くの知事から新型コロナの感染症法上の取り扱い見直しを求める意見

意見交換では、まず、内堀雅雄福島県知事(同副本部長代行/同副本部長)が同日、全国知事会が取りまとめた「新たな変異株の感染症法上の取り扱いについて、制度を実態に合わせていく時期に

必要がある」とした。角田徹副会長は、感染症法上の取り扱いについて、BA.5は重症化が少ない一方、感染力が非常に強いことも考慮する必要があるとした他、検査キットの配布が始まり、陽性者が増えてきた際には、各都道府県で重症化リスク等を踏まえた「交通整理」が必要との認識を示した。

また、検査キットの配布については、「現場に混乱を来さない形ですっかりと運用していきたい」と述べた。

平井全国知事会長は、検査キットの配布や陽性者の動線の問題について、地域の特性に合わせて対策をとっていくことが重要とした他、地方創生臨時交付金による今般の光熱費、食材費を始めとする物価高騰への対応については、知事会でも議論していく意向であることを紹介。同交付金に限らず、他の交付金や仕組みも考えられるとの見方を示し、「力を合わせ、今後も持続可能な医療経営ができるようにしていきたい」とした。

また、検査キットの配布については、「現場に混乱を来さない形ですっかりと運用していきたい」と述べた。

平井全国知事会長は、検査キットの配布や陽性者の動線の問題について、地域の特性に合わせて対策をとっていくことが重要とした他、地方創生臨時交付金による今般の光熱費、食材費を始めとする物価高騰への対応については、知事会でも議論していく意向であることを紹介。同交付金に限らず、他の交付金や仕組みも考えられるとの見方を示し、「力を合わせ、今後も持続可能な医療経営ができるようにしていきたい」とした。

また、検査キットの配布については、「現場に混乱を来さない形ですっかりと運用していきたい」と述べた。

また、検査キットの配布については、「現場に混乱を来さない形ですっかりと運用していきたい」と述べた。

人事課 03-3942-6493・総務課 03-3942-6481/03-3942-6477・施設課 03-3942-7027・経理課 03-3942-6486・広報課 03-3942-6483・情報システム課 03-3942-6135・企画情報室 03-3942-6482/電子認証センター 03-3942-7005(0)  
 医療保険課 03-3942-6490/介護保険課 03-3942-6491/医薬経営支援課 03-3942-6519/年金福祉課 03-3942-6487/生涯教育課 03-3942-6139/編集企画室 03-3942-6488/日本医学会 03-3942-6140/医学図書館 03-3942-6489/国際課 03-3942-6488

日本医師会

# 令和2・3年度

## 会内委員会答申・報告書

(全文は日本医師会ホームページ「メンバーズルーム」に掲載)

### 学校保健委員会答申

#### 「学校における保健管理の在り方の検討」

「アフェクト」を  
見据えた児童生徒等に対する

#### 健康教育推進

学校保健委員会(委員長:松村誠広島県医師会)は、会長からの諮問「学校における保健管理の在り方の検討」について、アフェクトを見据えた児童生徒等に対する健康教育推進について、(1)従来の児童生徒等の健康診断の内容や健康生活の実践状況の把握の在り方、(2)教職員を含む学校における保健管理の在り方、(3)健康教育の推進として、健康リテラシー向上に参画していくための土台と環境づくりの3点に絞って検討を行い、答申を取りまとめた。

「I. はじめに」  
「II. 子ども達を取り巻く環境変化と新たな健康課題及び健康教育の重要性」  
「III. 現状を変えるための一学習指導要領への反映」  
「IV. まとめ」  
「V. おわりに」  
「参考資料」  
「II. 子ども達を取り巻く環境変化と新たな健康課題及び健康教育の重要性」は、これらの実現のため、

行政との連携を更に推進することを求めている。

#### 「IV. まとめ」

健康教育に関して、「問題と対応方法の理解の基盤となる基礎知識をしっかりと教える」「生活習慣については複数課題との関連を考えた構成とする」「などを提案。どの年齢で教えるべきかについては、学年とともにより詳しく、かつ反復して学べる工夫が、知識と理解の定着や、望ましい生活習慣の獲得のために必要だとすることも、自殺や精神疾患、喫煙や飲酒、性行動などに関しては、教える年齢が遅すぎることのないよう注意が必要だとしている。

### 第XI次生涯教育推進委員会答申

#### 「新たな時代の医療連携に資する医師の生涯教育のあり方」

第XI次生涯教育推進委員会(委員長:長谷川仁志秋田大学大学院教授)は、会長からの諮問「新たな時代の医療連携に資する医師の生涯教育のあり方」に対する答申を取りまとめた。

「I. はじめに」  
「II. 医療連携の全体像を把握して生涯教育の在り方を考える」  
「III. 第1章では、全ての診療は、小さきさまざまな役割のチームが連携することで成り立っており、理想的な医療を実現するためには各チームにおいて教育体制を構築することが重要になると指摘。

「II. はじめに」  
「III. 第1章では、全ての診療は、小さきさまざまな役割のチームが連携することで成り立っており、理想的な医療を実現するためには各チームにおいて教育体制を構築することが重要になると指摘。

「III. 第1章では、全ての診療は、小さきさまざまな役割のチームが連携することで成り立っており、理想的な医療を実現するためには各チームにおいて教育体制を構築することが重要になると指摘。

### 第五次

#### 「未来医師会ビジョン委員会答申」

#### 「社会の変化に対応し続ける医師会であるために」

未来医師会ビジョン委員会(委員長:秋山欣丈静岡県医師会理事)は、会長諮問「社会の変化に対応し続ける医師会であるために」について答申を取りまとめた。

「I. はじめに」  
「II. 社会の変化に対応し続ける医師会であるために」  
「III. 社会の変化に対応し続ける医師会であるために」  
「IV. 社会の変化に対応し続ける医師会であるために」  
「V. 社会の変化に対応し続ける医師会であるために」

「I. はじめに」  
「II. 社会の変化に対応し続ける医師会であるために」  
「III. 社会の変化に対応し続ける医師会であるために」  
「IV. 社会の変化に対応し続ける医師会であるために」  
「V. 社会の変化に対応し続ける医師会であるために」

「I. はじめに」  
「II. 社会の変化に対応し続ける医師会であるために」  
「III. 社会の変化に対応し続ける医師会であるために」  
「IV. 社会の変化に対応し続ける医師会であるために」  
「V. 社会の変化に対応し続ける医師会であるために」

「I. はじめに」  
「II. 社会の変化に対応し続ける医師会であるために」  
「III. 社会の変化に対応し続ける医師会であるために」  
「IV. 社会の変化に対応し続ける医師会であるために」  
「V. 社会の変化に対応し続ける医師会であるために」

「I. はじめに」  
「II. 社会の変化に対応し続ける医師会であるために」  
「III. 社会の変化に対応し続ける医師会であるために」  
「IV. 社会の変化に対応し続ける医師会であるために」  
「V. 社会の変化に対応し続ける医師会であるために」

案内



令和4年度  
第53回全国学校保健・学校医大会  
in岩手

※会場に変更が生じることがありますことをご下知下さい。

◆メインテーマ：「子どもたちの『生きる力』を育む」

◆主催：日本医師会  
◆担当：岩手県医師会  
◆日時：11月12日（土）  
午前10時～

◆会場：ホテルメトロポリ

リタン盛岡 本館・ニューウイング（本館）盛岡市盛岡駅前通1番44号、「ニューウイング」27号  
盛岡市盛岡駅前通2番019-625-1211

- ◆参加者：日本医師会会  
員及び学校保健に関係のある専門職の者
- ◆参加費：現地・WEB共に15000円
- ◆申込方法：大会公式ホームページ（<https://school-health1153.jp/index.html>）の「事前参加登録」ボタンより登録フォームを開き、必要事項を入力願いたい。
- ◆主なプログラム：
  - 分科会
  - ①からだ・こころ（1）
  - ②からだ・こころ（2）
  - ③からだ・こころ（3）
- ④耳鼻咽喉科 ⑤眼科
- 都道府県医師会連絡会議
- 開会式・表彰式
- 次期当番県医師会長あいさつ
- 特別講演：「非認知能力について（仮）」（無藤隆白梅学園大学名誉教授）
- シンポジウム：「子どもたちの『生きる力』を育む」
- ①「子供がストレスを乗り切る力」レジリエンスを育む（木下勝之日本産婦人科医会前会長）
- ②「全ての子どもたちの幸せのために私たちが今知っておきたい『非認知能力』について」（千田恵美岩手県医師会女性医部会副部長）
- ③「マンダラートー目標達成に向けたプロセス」（仮）」（佐々木洋花巻東高等学校硬式野球部監督）
- ディスカッション
- アトラクション
- 懇親会（意見交換会）
- ◆問い合わせ先：岩手県医師会（大会事務局）（019-651-1455（代））

国民向け動画「教えて！日医君  
～熱中症に気をつけよう！～」が完成



日本医師会ではこのほど、国民向け動画「教えて！日医君～熱中症に気をつけよう！～」を制作し、7月25日より、日本医師会公式YouTubeチャンネルで公開しています。



本動画はこの夏、日本各地で連日猛暑日が観測されていることを受けて、熱中症に対する注意喚起を行うことを目的として制作したものです。

動画では、編集委員の一人として環境省の『熱中症環境保健マニュアル2022』の策定にも携わった松本吉郎会長が、日本医師会の公式キャラクターである「日医君」の質問に答える形で、熱中症の症状やかかりやすい環境、その予防法の他、熱中症を疑われる人を見かけた場合の対処法、コロナ禍において注意すべきことなどについて、分かりやすく解説しています。

日本医師会では、本動画のデータ（MP4ファイル）をご希望の方に差し上げています。ご希望の方は、(1) 所属機関、(2) 氏名、(3) 電話番号、(4) 使用目的を明記の上、日本医師会広報課 [kouhou@po.med.or.jp](mailto:kouhou@po.med.or.jp) まで、タイトルを「熱中症動画希望」として、メールでお申し込み願います（動画は頂いたメールアドレス宛にギガファイル便にてお送りします）。

訃報



■柏木 明氏（元熊本県医師会長／元日本医師会理事）


7月18日死去、94歳。通夜・葬儀は、近親者のみにて執り行われた。喪主は、ご子息、孝史様。氏は昭和3年生まれ。昭和25年鹿児島県立鹿児島医学専門学校卒業。昭和36年柏木医院開業。平成11年4月から平成16年3月まで熊本県医師会会長を3期務めた。また、その間、平成12年4月から平成14年3月まで日本医師会理事を1期務めた。平成17年に旭日小綬章を受章している。

# 南から北から

徳島県医師会報  
徳島市医師会より  
第50号より

## 新聞配達の仕事に出

坂東 正章



もう15年以上前と思

う。診察室での患者さんとの話の中で、次のようになりとりがあった。

「それは私だったかも知れませんが、80代Aさんの診察を終え、世間話の途中で彼はこう言った。その方は、私の子どもの時代に住んでいた地域から受診されていた。

私は母子家庭で育ったが、母は私を含めて3人の子育てのために、三つの仕事を掛け持ちしていた。生命保険の外交員、近所の人々を対象にした洋裁請負、学習塾英語講師。母は大正8年に米国コロラド州デンバーで生まれ、現地の学校に通っていた。6人家族であったが家庭の事情で17歳の時に日本に帰国し、徳島高等女学校に入学した。

英語は生涯通達者で、Native speakerのレベルをこなすまで維持していた。私が子どもの頃「Get out my way」「How stupid you are!」と英語で叱られることもよくあった。

しかし、母はこれだけ


の仕事をしても、3人の子どもの養育費捻出には十分でないことが子ども心にもよく分かった。私が小学生の時は「潮風クラブ」という少年野球チームで野球に明け暮れていた。中学生の時は、故上田収穂先生が主宰するリードオケストラ部でチェロを弾いていたが、城南高校入学後はまた野球をしたかと思いきや、硬式野球部に入部した。家の経済状態を考えると、グループやユニフォーム代の工面は自分でしなければと思い、中学卒業直後直ちに新聞配達を始めた。

朝は午前5時過ぎから配達をするため、家を出るのは午前4時半頃。しかし、高校生活を始めてみると、予習復習に時間を取られ、また野球部の練習疲れで、たびたび朝寝坊をした。急いで販売店に行き自転車まで宅配を始めても、配達先の家の前で新聞を待っている人がいた。「仕事に行く前に新聞を読むのに、もっと早く配達せんかったらあかん」と複数の家で叱

長崎県医師会報  
長崎県医師会より  
第915号より

## 握り寿司

増崎 英明



とAさん。ひよっとしたらあの時叱られたのはAさんかも知れないと思いついてわびたが、故郷の話に花が咲いた。

Aさんの診察時に、新聞配達のごんエピソードを話すと、私も新聞を遅い時間に配達する配達員を叱ったことがあった。

結局この新聞配達は半年弱で断念せざるを得なかったが、新聞配達のはる苦い思い出が、懐かしものに生まれ変わった。

ことを尊重してくれる。寿司屋は「Yo! Sushi」という名である。いわゆる回転寿司で、ロンドン第1号店だった。バス

キーが「ヒラボー、何か頼んでくれ」と言うので、私は店員に日本語で話し掛けた。だが通じない。よく見ると、ねじり鉢巻きの店員は、ビニール手袋を付け酢飯を型に押し込んでいた。東洋人だが日本人ではない。「バス

びたりと止まった。何を言い出すんだ、という顔で「これはポイルした魚だよ」と言った。「寿司は生の魚だよ」。そう言

うとバスキーは話をしなくなった。以上は、日本の寿司なるものの、海外における体験談である。

ウィンブルドンには日本人経営の寿司屋があった。生魚は貴重なので、小さく握った酢飯に、小さい魚が乗っている。小さくても子ども達は大喜びである。2歳だった長女は、握り寿司の魚(ネタ)を外し、「これあげる」と私の皿に乗せ、酢飯だけをうまそうに食べた。

論を待たずこれはステイホームの反動、三密回避の順守が生んだ一過性のブームであって、そこにホイホイと追随している自分の軽さを自虐しつつも、「これが経済を回すということなのだ。金は天下の何とやら」と、寝前のいとまに「お道具カタログ」を眺めて

た。金に感心、それらを駆使するシーンを思い浮かべたら、何やら居ても立ってもいられずアマゾンのカートに放り込んでいく、というような状態で、つまりよくある「道具ばかり立派な」キャンペーンに自分は成長しつつある。日々の診療があるの

で、泊まりのキャンプは片手に余るほどしか経験していないけれど、週末に子ども達と、薄暗くなった庭先に焚き火台を出してきて薪をくべ(ニワカなので着火ライターを使う)、焼き芋を焼いたり、シチューを作ったり、飯盒メシを炊いたりするだけで、それは心が浮き立つように楽しく、その高揚感の中にある時、主役は間違いなく「自分達で起こした火」であって、並み居る「お道具達は、単なる脇役として奥座敷に引っ込んでいます。


当初自分は今回の空前のキャンプブームを「三密」を「回避」するための逃げ道のように眺めていた。しかし今はそれが違ってみえる。これはリアルを捕りに行く「人間の根源的、積極的な欲望に直結している。ウィークデイのアマゾン涉猟はバーチャルな埋め合わせでしかなく、週末に経験する頬を焼く炎のリアルには到底かなわない。

ブームはブームであるがゆえに軽薄だけれど、それが流行する背景は結構切実なのだと思う。

栃木県  
栃医新聞  
NO.2373より

## デジタルとアナログ、バーチャルとリアル

松島陽一郎



本屋に出掛けて雑誌コーナーを眺めるのが好きで、週刊誌、男性誌、経済誌、趣味系専門誌、料理雑誌、果てには女性誌なんぞを、いちいち手に取ることもなく、表紙に並んだ文字を、見るでもなく読むでもなく「何となく眺める」といった風情で巡回していると、やはり出版というものは、買い手が付いてこそ売

であるから、時代を先取りしている体を装いながらも、人々が今求めている「気分」というようなものを色濃く反映して

このコロナ禍が始まって以降は、「免疫力を高める食事法」だの「ワクチンの不都合な真実」だの「家飲み大全」だの「在宅ワーク特集」などの文字が踊っている。実際手に取ってみればざっと内容が濃くないどころか、デマまじりの流言も多いし、冷えた消費マインドを何とか鼓舞せんと

# 勤務医のページ

## 勤務医委員会答申

### 「勤務医の意見を 集約する方法、および 勤務医が日本医師会に 望むもの」 ～その1

勤務医委員会（委員長：渡辺憲鳥 取県医師会長）は、諮問「勤務医の意見を集約する方法、および勤務医が日本医師会に望むもの」に対する答申を取りまとめた。その概要を2回に分けて、紹介する。

### 勤務医の意見を集約する方法

#### 1. 意見集約のための 仕組み作り

(1) 都道府県医師会および郡市区等医師会の勤務医部会・委員会の活性化

①議論・提言を日本医師会の医療政策へつなげる

②勤務医部会・委員会の立ち上げ

③勤務医部会・委員会の活性化

④地域によって勤務医部

会等の活動はさまざまであることから、大学医師会との協働や多様な価値観を持った勤務医が医師会へ関心を向けるための対策が必要である。

そこで、定期的に行行政や大学医師会、大病院と連携して若手医師の交流の場を設けること、他、各都道府県医師会において大病院、地域中核病院等の立場の違う医師が集まって意見を述べようとする会合を持つことが、構成員の多様化にもつながるものと考えられる。

また、病院におけるそれぞれの立場からの意見を反映するための小委員会を本委員会内に設置することなどを通じて、本委員会への提言をまとめるものなど、新たな取り組みも有用と考えられる。

(2) 医師会三層構造における相互関係性強化・病院諸団体との連携

勤務医の意見、要望は必ずしも方向性を同じくするものではない。

意見の「集約」が本場に必要か、そもそも可能かについては疑問視する声もあるが、それぞれに違う方向性ではあっても、それら多くの意見を「拾い上げる」仕組みが日本医師会には必要と考

える。勤務医それぞれが抱える意見を拾い上げること、三層全ての医師会にとって重要なテーマである。

り、各医師会の相互関連性の強化とそれぞれの立場からの現状分析、課題解決への取り組みも必要である。

#### 2. 若手医師に対する 取り組み

(1) 若手勤務医の医師会活動の参画

①既存の勤務医部会・委員会におけるリーダー的勤務医の育成

価値観が多様であることは、個別具体的な意見を集約することの困難さと同時に、全体を代表するリーダー育成の困難さをも意味する。まずは次世代のリーダー像について、従来の価値観や固定観念を取り払える環境で十分議論し形づくっていく必要がある。

更に、医師会として、組織が望むロールモデルではない少数派医師にも重点的に光を当てる仕組みづくり、取り組みが必要である。

(2) 若手勤務医会（病院の中核を担う勤務医と医師会未入会の若手勤務医など、異なる視点からの意見を拾う場）の設置

「医師会活動に若手医師の参加を促す」を目的として登録し、医師会活動に見学参加できるようなプログラムを設けてはどうか。更に、「医学生

会（仮）」には日本医師会刊行物の定期的な直配付や、集会を開催する他、各都道府県医師会が同様の活動の場を提供していくことも、医師会との関係づくりに有用と考

える。また、医師資格を有する行政官などもこれら情報発信の活動に参画してもらい、更に、情報発信の媒体も雑誌等に限らず、ホームページやSNSなどを活用していくことも考慮すべきである。

#### 3. 病院等との意見交換の場の設置

(1) 病院における多様な立場の医師の意見集約

①各地域医療構想区域等における中核的病院の幹部・リーダー的医師との意見交換

特に複数の中核的病院を有する大都市圏では、中核的病院の幹部医師やリーダー的医師との意見交換が効果的に行われること、医師の生涯研修や地域医療の発展、保険診療の充実の他、非常時における各施設の能動的かつ効率的機能分担にもつながる。

そのため、全ての都道府県医師会の勤務医部会・委員会等において、各地域医療構想区域等における中核的病院の管理

者・幹部医師と共に、多様なリーダー的医師が広く参画する意見交換の場や活動を企画していくことを提言する。

②管理職・中間管理職・若手医師・女性医師など異なる年代や立場の医師の意見を求める工夫

地域の医師会において勤務医の意見の集約を考

える場合には、まず若手医師の意見を聞くことから始まる。そのためには、病院管理者が、若手医師の医師会活動参画のための体制づくり、更には、勤務上の配慮をしっかりと行うことなどについては、なし得ない。

今般の新型コロナウイルス感染症対策においては、各都道府県で、医師会と病院団体の連携強化が醸成されたのではな

るかろうか。医師会と病院団体が定期協議の場を設けることは、勤務医に係る諸課題が両者の重要な

テーマとなってきた昨今、極めて有用である。

今般の新型コロナウイルス感染症対策においては、各都道府県で、医師会と病院団体の連携強化が醸成されたのではな

るかろうか。医師会と病院団体が定期協議の場を設けることは、勤務医に係る諸課題が両者の重要な

テーマとなってきた昨今、極めて有用である。

今般の新型コロナウイルス感染症対策においては、各都道府県で、医師会と病院団体の連携強化が醸成されたのではな

るかろうか。医師会と病院団体が定期協議の場を設けることは、勤務医に係る諸課題が両者の重要な